



NPO法人グラウンドワークひだかむら、日高村ほか（日高村/高知県）

地域特性

高知県中央部を流れる仁淀川の中流で合流する日下川は、延長10km程度の河川で、これまでも大雨の際に、日下川調整池周辺で氾濫を繰り返していました。そのため、洪水時の調整池として日下川調整池は、重要な役割を果たしてきました。

また、日下川調整池は、高知県内で最大規模（約14ha）の内陸型湿地で、様々な鳥類、魚類、植物が生息・生育していますが、洪水調整池という性質上、湿地に安全に近づけない状況でした。

きっかけ

日高村では、平成7年に高知県生態系保護協会から日下川調整池に豊かな自然があるため、その自然を活用する取組について提案を受けました。その後高知県生態系保護協会が講師となり、子供を対象として自然を活かした生物観察会「わくわく湿地探検隊」等を平成7年から実施してきました。

何を目指したか

洪水調整池において安全を確保しながら、豊かな自然環境を有効に利活用することを目指しました。

何をやったか<現状維持>

内陸型湿地である日下川調整池を最大限活用するために、調整池周辺で遊歩道の整備や観察路整備（メダカ池、水路整備）、植樹等を実施し、環境教育やレジャーの場としても安全に利活用できる空間として整備しました。また、平成9年には、グラウンドワーク（住民・企業・行政のパートナーシップによる持続可能な地域社会の構築）の手法により環境改善活動に取り組めるよう、日高村グラウンドワーク推進協議会が発足し、NPO法人化を経て小学生を対象とした親子観察会や、日下川調整池の豊かな生態系を観察ガイドが同行するフットパスなどのイベントを開催しました。

主な課題

<仕組み>

洪水調整池を安全に利活用することが課題でした。

→解決策は後述

<仕組み>

調整池の周辺整備と利活用の財源確保が課題でした。

→解決策は後述



日下川調整池 全景



カヌー体験



●期待される効果

国土管理	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地帯の機能や生態系を崩すことなく環境教育にも活用できる整備
自然共生	<ul style="list-style-type: none"> ・調整池をビオトープ化し、多様な動植物生息の場の保全
防災・減災	<ul style="list-style-type: none"> ・調整池として、水害リスクを軽減
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を中心とした地域コミュニティの拠点

関連予算

- ・おもてなしの水辺創造事業（県）、河川整備基金助成事業（公益財団法人河川財団）

問い合わせ先

日高村企画課（0889-24-5126）

●取組のステップ

平成7年?

調整池の自然体験開始

■ 日下川調整池は、大雨の際の調整池としての役割を果たしてきました。また、日下川調整池は、高知県内で最大規模（約14ha）の内陸型湿地で、様々な鳥類、魚類、植物が生息しています。

そのため、日高村は、高知県生態系保護協会からの提案（平成7年）を受けて子供向けの調整池の生物観察会「わくわく湿地探検隊」を始め、網で魚をすくうなどの体験を開始しました。

ただし、洪水調節池という性質上、子供たちが湿地に安全に近づくことが難しいという課題がありました。

平成8年?

地域住民・民間企業の参画

■ 平成8年以降、日下川調整池を安全に活用できるよう、メダカ池等の設置をはじめ、調整池周辺での遊歩道整備、観察路整備（メダカ池、水路整備）、金属製U型水路の石積みによる多自然型工法への改修等を行い、環境教育等に利用できるようにしました。その際、村民がボランティアとして作業に参加し、村内企業が重機と資材を提供し、村が村内に声かけを行うなど、グラウンドワーク（住民・企業・行政のパートナーシップによる持続可能な地域社会の構築）の手法により取組を進めました。

これらの活動を始め、好評だった「わくわく湿地探検隊」、グラウンドワーク（住民・企業・行政のパートナーシップによる持続可能な地域社会の構築）の広がりをきっかけとして、平成9年にこの活動を村内全域にまで広めようと、「日高村グラウンドワーク推進協議会」を設立しました。

また、協議会の設立以降、地域住民が主体的に日下川調整池に関わる取組を進める機運が高まり、平成24年には、協議会からNPO法人に移行し、現在も、ボランティアによる植樹、メダカフェスティバル等のイベントなど、多様な主体の参画による取組を進めています。

今後の展望

■ NPO法人として、将来的には日下川調整池周辺などで花見ができるよう、千本を目標に桜の植樹及び育成に取り組んでいきます。また今後は、NPO法人の活動を活性化させるために、会員の増加に努めていきます。

●得られた知見（課題と対応詳細）

＜仕組み＞

□洪水調整池の安全な利活用

洪水調整池の利活用之际し安全性を確保するため、ハード面ではグラウンドワークの手法により調整池周辺で子どもたちが安心してメダカや水辺生物にふれあえるメダカ池を整備するとともに、調整池周辺を安全に散策できる遊歩道の整備や観察路整備等の整備を行いました。

また、ソフト面でも、平成7年に始まった日下川調整池や周辺における「わくわく湿地探検隊」やフットパスの開催時にはガイドが同行し、参加者の安全性に配慮しています。

＜仕組み＞

□活動の財源確保

調整池の周辺整備と利活用の財源確保を図るため、NPO法人は高知県のおもてなしの水辺創成事業による草刈り受託や、日下川調整池に隣接する田んぼで育てた減農薬米の販売等を行っています。

これらの財源をあじさい・桜の植樹等の活動に利用しています。

●仕組みや体制

